

山口県発！！世界に誇れる日本の花！！

オリジナルユリ4品種が優秀品種に選ばれました。

オランダ王国フェンロー市(アムステルダムより南東に約185kmドイツとの国境の町)にて、2012年4月5日～10月7日の間、“自然と調和する人生”をテーマとして、10年に1度だけ開催される2012フェンロー国際園芸博覧会(フロリアード2012)が開催されました。

同博覧会の「品種コンテスト」において、山口県オリジナルユリ4品種(プチシュミネ、サンフレア、プチロゼ、プチソレイユ)が優秀品種として表彰されました。

このような優秀な成績がおさめられたのは、皆様方の支援、関係各位の日頃の努力によるものと、感謝いたします。

これを機に、今後の一層の躍進に向けて品種育成に取り組んでまいります。

プチシュミネ

サンフレア

プチロゼ

プチソレイユ



【参考】

☆プチシリーズ(プチシュミネ・プチロゼ・プチソレイユ)

特徴1 ・花の直径が10cm程度(ミニブーケ、テーブルアレンジに適する)

特徴2 ・ユリ独特の香りが少ない。(飾る場所を選びません。)

特徴3 ・シュミネ／暖炉、ロゼ／ばら色、ソレイユ／太陽

☆LA系ユリ(サンフレア)

特徴1 ・花の直径が10.5cm程度

特徴2 ・生育が旺盛で、花色・花形の優れたユリ新品种



＜主な内容＞

『オリジナルユリ4品種が優秀品種に選ばれました。』

◇各部の取り組み

『小麦「ニシノカオリ」に代わる新品种「中国161号」の導入について』

『イチゴ栽培の暖房費を少なくするテブヒータを開発』

『高接ぎ木によるトマト青枯病対策の普及をめざして』

『ウシ受精卵のガラス化保存技術で受胎率向上！』

『森林・林業のエキスパートを養成！』

『やまぐち就農支援塾は、明日の農業を担う“ひと”を育てています。』

～本部企画情報室～

～農業技術部土地利作物研究室～

～農業技術部園芸作物研究室～

～農業技術部資源循環研究室～

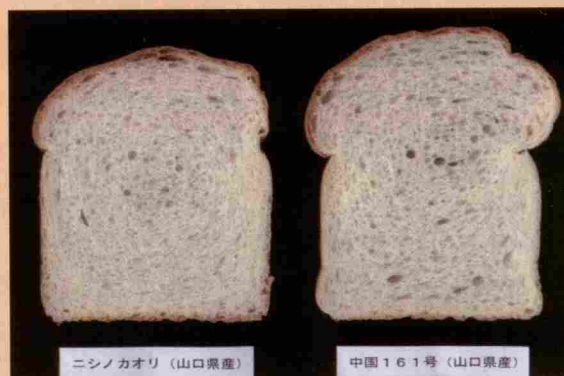
～畜産技術部家畜改良研究室～

～林業技術部林業研修室～

～農業研修部(農業大学校)～

小麦「ニシノカオリ」に代わる新品种「中国161号」の導入について

土地利用作物研究室では、現在、学校給食などで使用されている小麦「ニシノカオリ」に代わる新しい小麦品種の選定を進めており、このたび、小麦「中国161号」が後継候補に決まりました。この品種は、近畿中国四国農業研究センター（広島県福山市）が育成した新しい小麦品種です。多収で赤かび病などの病気に強く、製パン性を高める遺伝子を持っているため、収量性や製パン性の向上が期待できます。現在、県内数ヶ所で大規模実証調査を実施しており、全国に先駆けて奨励品種に採用される予定です。今後は、施肥試験等の実施により栽培技術を確認し、「中国161号」への迅速な品種切替を進めていきます。



「ニシノカオリ（左）」と「中国161号（右）」の立姿と子実、パン

イチゴ栽培の暖房費を少なくするテープヒータを開発

イチゴでは、クラウンと呼ばれる地際部の温度が生育に影響することが知られています。そこで、クラウン部のみを加温する暖房（クラウン部局所加温）を、簡単にかつ安全に実施できる専用ヒータの開発に取り組みました。開発は、センターのほかに、中国工業（株）（光市：ステンレス加工業）、新立電機（株）（下松市：産業用機器設計・製造業）および徳山工業高等専門学校が連携して行いました。

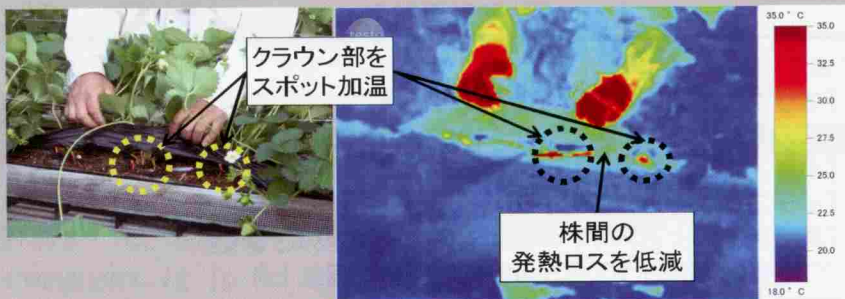
まず、幅6mm、厚さ0.02mmのステンレス箔テープを絶縁体で被覆し、通電することでテープ状の発熱体とし、テープヒータと名付けました。テープヒータは、自由に曲げたりできるため、加温するクラウン部との接触面積が大きくなる利点があります。さらに、テープヒータの任意箇所を発熱部に設定できる‘スポット加温型’テープヒータを開発しました。これによりイチゴの株元をスポット的に加熱するとともに、株間の発熱を抑えることで節電を図ります。同じ面積（株数）を加温する場合の消費電力量は、従来のテープヒータに対して5割程度少なくすることができます。

テープヒータを導入した栽培ハウス（山口型高設：温風暖房なし）では、品種‘紅ほっぺ’を用いて基準単収となる4t/10aを確保しつつ、慣行暖房方法（温風暖房機でハウス内気温を8℃以上に維持）に比べて、暖房コストを約3割削減できました。現在も、センター内でテープヒータによる省エネルギー栽培の実証中です。

中国工業（株）では、平成25年度からの本格販売を予定しています。



クラウン部に設置した発熱体テープ



スポット加温型テープヒータの発熱状況

高接ぎ木によるトマト青枯病対策の普及をめざして

トマト青枯病に対して高い防除効果を有する「高接ぎ木栽培」技術*を開発し、実用化しました。

従来の接ぎ木栽培（現地慣行）と比較し、青枯病の発病が50～80%抑制できます。

生育・収量・果実品質は、慣行栽培と同等です。

高接ぎ木苗は共同研究機関である（株）ベルグアース（愛媛県宇和島市）から販売され、トマト生産者が購入することができます（2012年度約5万本出荷実績）。

2012年度からは、各種普及事業（萩市高俣地域；やまぐち集落営農生産拡大事業、山口市阿東地域；植物防疫事業IPM、農研機構の広報・連携促進事業）によって、6生産者全20a規模の実証圃を設置し、JA、農林事務所、センターが普及推進を図っています。

* 台木の本葉2葉以上で穂木を接ぐ方法



高接ぎ木苗と慣行接ぎ木苗の比較



高接ぎ木栽培による防除効果

ウシ受精卵のガラス化保存技術で受胎率向上！

畜産技術部では、ウシの低ランク受精卵をガラス化保存技術により凍結保存することで、従来法より高い受胎率が得られる技術を開発しました。

ウシの受精卵移植はウシに過剰排卵処理を施し、複数の受精卵を回収し、他のウシ（借り腹）に移植することで、同じ遺伝子を持つ複数の産子を得ることが可能になります。

しかし、過剰排卵処理により回収したウシ受精卵のなかには、品質の低いもの（低ランク受精卵）もあり、従来の凍結方法では受胎率が悪くなるため、廃棄されていました。

低ランク受精卵をガラス化保存することで、廃棄されていた受精卵を有効活用できるようになり、数多くの優秀な産子を得ることが期待されます。

当部では、今後も受精卵移植の技術向上及び普及に取り組んでいきます。



牛の受精卵



ガラス化保存

森林・林業のエキスパートを養成！ ～基幹林業技術者養成研修の取り組み～

林業技術部では、地域林業の基幹的担い手を育成するため、森林組合等の林業認定事業体従事者を対象に、林業作業に必要な知識・技能の習得や労働安全衛生規則に基づく各種資格免許の習得を図る「基幹林業技術者養成研修」を実施しています。

この研修は、昭和56年度から実施しており、平成23年度までに219名が修了し、地域林業の基幹的担い手となる「山口県林業作業士」として、県内の各地域で活躍しています。

平成24年度は、県内の森林組合等の林業事業体から8名の研修生が、5月29日から12月3日までの28日間受講し、12月14日の閉講式で、一般財団法人やまぐち森林担い手財団理事長から「山口県林業作業士」の認定証が全員に授与されました。

今後、研修終了生が地域林業振興の中核的技能者として、活躍されることを期待しています。



やまぐち就農支援塾は、明日の農業を担う”ひと”を育てています！ ～農業研修部（山口県立農業大学校）の取り組み～

農業研修部では、「やまぐち就農支援塾」を設置し、社会人の方を対象とした各種研修を実施しています。

このうち就農を支援する研修では、農業を体験したい方が平日5日間研修する「短期研修」、農業を目指したい方が日曜日を利用して年間15日程度研修する「入門研修」、農業に本格的に取り組もうとする方が月曜日から金曜日まで約1年間研修する「担い手養成研修」を設け、新たな担い手の育成を支援しています。

25年度も幅広い研修ニーズに応え、カリキュラム等の充実を図って参ります。



「短期研修の実習風景」

24年度の開催状況 (1124年11月末現在)

研 修 名	受講者数	研 修 内 容
短期研修 (第1回、第2回)	22	農作業体験、基礎的な講義など
入門研修	51	野菜、果樹、肉用牛の基礎知識の講義及び栽培・飼養管理実習
担い手養成研修	18	専門的な技術・知識の講義及び実習、先進農家派遣など



担い手養成研修（果樹）の実習風景

【お問合せ先】
県農林総合技術センター農業研修部やまぐち就農支援塾
TEL (0835) 38-0510

※短期研修第3回

募集期間：H25年1月28日～2月15日

研修期間：H25年3月4日～3月8日

<山口県農林総合技術センター 企画情報室>

〒753-0214 山口市大内御堀1419 TEL (083) 927-7011 FAX (083) 927-4386

URL http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a172010/00000001/index.html

※ 皆さまからの御意見、御要望をお待ちしております。